

今だから見に行きましょう。

うらかな春の公園には、季節を待ちわびた木々や草花がいっぱい。
とくにこの時期は、7,000株ものクレマチスが咲き揃い、
美しい姿を見せてくれています。

フェアの両日は、園芸豆図鑑や花の種の無料配布をはじめ、
苗木・花鉢等の展示即売、スプリングコンサートなど楽しい催しがいっぱい。
花たちとともに、休日のひと時を相模原麻溝公園で過ごしませんか。

クレマチスフェア'96

市立相模原麻溝公園

5/11(土)12(日)

名もない草なんて一本もありません。

長年にわたり植物の研究に携わり、幅広い活動を繰り広げている政木さん。昨年十一月に完成した市民待望の博物館にも、建設前の植物調査や、標本の寄贈などさまざまな形で協力されています。今回は政木さんと植物との関わりをお話いただきました。



博物館に寄贈する植物標本

植物を通じてたくさんのつながりが生まれました

私が植物に関心を持ったのは、中学の時に出会った先生の影響です。とくに植物が好きというわけでもなかったんですが、その先生の気さくな人柄にひかれたんでしょね。県（出身地の三重県）の植物誌の編集や出版もされていたんですが、先生についているいるなところを歩くうちに、だんだん植物に興味を持つようになったんです。

私の仕事は植物とは無関係で、電気メーカーの研究勤務でした。やはり仕事をしながらでは忙しくて植物の研究に没頭していませんでしたが、十五年前に定年を迎え、こ



自然観察会のガイドとして

れを機にまた本格的に植物研究を再開したわけです。

相模原市には仕事の関係で二十九年前に移り住みました。当時、周辺には森や野原がいっぱいあって、ゼンマイやワラビも採れたし、ハルリンドウやコケリンドウなどさまざまなリンドウの花も咲いていたんです。

そして十一年前のこと、市の講座で相模原の植物を学習する機会があり、その受講生たちで「さがみ野植物友の会」を結成したんです。現在会員は四十名ほどで、年齢層も三十代から私くらいまで幅広いんですよ。活動は月一回、近隣の山や植物園、自然観察の森などで野外観察会を行うほか、年2回、観察記録を兼ねた会報も発行しています。

こういった活動や研究を続けるうちに、植物を通じていろいろなネットワークもでき、全国各地に仲間もできました。植物学会の著名な先生方との出会いも数多くありました。情報交換や資料集めなどは、やはり多くのつながりが大事なんですね。

出会ってみたい植物はまだ無限にあります

仲間とあちこち歩いている、今までに本でしか見たことがない植物に出会うことがあるんです。そんな時は、「えらいもの見つけた」と喜んで興奮しますね。中には「こんなところにはあるはずのないもの」もあるんです。植物分布には載っていないはずなのがあるんですよ。まだまだ調査しきれない、

解明されていないものも非常に多いです。私自身、これは残しておきたいと集めたもの、また全国各地の友人からもらったものなどで、植物の標本は六千枚にもなりましたが、探してみたい、出会ってみたい植物はまだたくさんあります。

私は植物のなかでもとくにシダ類が好きで、標本の中には、和歌山、三重、秋田をはじめ、西表島や小笠原父島、石垣島などに生息するめずらしいシダ類もたくさんあるんです。シダはね、ほかに見たいような植物がない三月頃にも、山に入った時に鮮やかに目に飛び込んでくるんですよ。まあそんなところにひかれたんでしょね。

こうして集めた六千枚の標本は市の博物館に寄贈するために、整理している最中です。また、博物館の建設に際しては、市動物植物調査委員会として建設地の調査に携わったんですが、ここでもめずらしいものが見つかりましたよ。ノジトラノオというサクラソウ科の植物で危険種（ほっておくと絶滅するもの）に指定されているものなんです。ほかに山奥にしか生息するはずのないラン科のクモキリソウなんかもありましたね。

ともかく今まで相模原には博物館がなかったんで、本当によかったと思います。ここを拠点として、市民の植物への関心も高まってくれるといいですね。

相模原にも植物観察のいい場所がいっぱいあります

各地の植物を見て歩いて、ビデオに収めてくるとも多そうですね。それを自分で編集し



ビデオ等を利用した新しい標本整理

て、植物の名前を入れ、BGMも入れます。仕上がったビデオは仲間で見たり、家族で楽しむくらいですが、それも百本ほどになりました。資料作りも、以前は写真を撮って手作業でやっていましたが数が膨大になってしまったので、今はビデオ撮影してビデオプリンターを使って効率よく整理しています。電気関係の仕事に関わっていたので最新の機械に

も興味があるし、使っていて楽しいですね。このようにビデオを制作したり、植物の整理や調べものなどをしていくと、つい時間を忘れてしまつたんです。朝から晩までメシも食わずにやることがありますね。体に悪いとわかってはいるんですけど...

やっぱり植物に接しているのが好きなんです。みんなかわいいですね。その辺に生えているような草だって、科の、と正式名称がある。名のない草なんて一本もないんです。たかが草、と思わずに、大切にすく気持ちは多くの人が持つてほしいですね。

植物を嫌いな人なんて、そういうんでしょ。なのにみんなあまり外へ出ない。緑に親しもうとしないのはどうしてでしょう。相模原にもまだまだいいところはいっぱいあるんですよ。めずらしい植物だって見られます。例えば上大島の方にあるのがミミカタナンテンシヨウといつて、ミズバショウに形が似ているんですが青紫色をしています。たくさん自生していますよ。

できれば自分の足で探して、好きな場所を見つけていいですね。そこにある植物に目を向けて、なんだろこれこれ、とひとつひとつ見ていくと、興味をひくものもあるんじゃないでしょうか。

相模原のような都市の中の緑については、さまざまな見方、また問題もありますから一概にはどうこうとは言えません。もちろん緑を大切にしたいという気持ちはあります。土地を買わないと保全されないでは、本来は困るわけです。ある施設ができるという場合は、仲間とそこへ行って植物の調査をして、貴重なものがあれば報告書も提出することもあります。少しでも植物に目を向けてくれれば、この思いからです。やはり残せるものは残して欲しい。同じような思いで、市民一人ひとりが植物に対してやさしい目を持っていければ、緑は守られていくのではないのでしょうか。

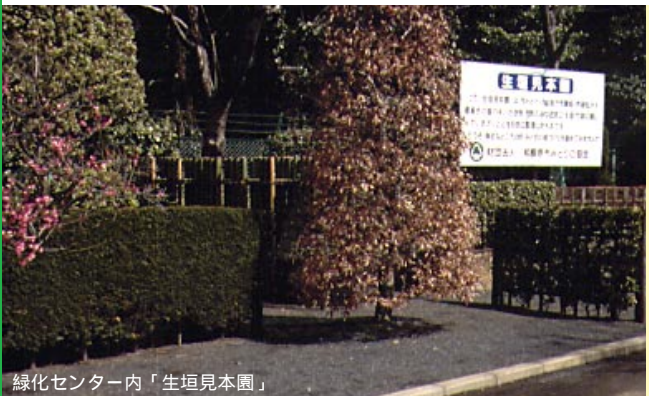
政木 淑人

(まさき よしひと)

一九三三年三重県生まれ、さがみ野植物友の会会長、植物地理分類学会会員、日本シダの会会員、横浜植物会会員。市の博物館への協力ほか、神奈川県植物誌調査会への標本の提供など、市内外で幅広く活躍中。

身近なみどり「生垣」の設置に対して助成をします。

防災・地域緑化活動の一環として、身近な「みどり」である「生垣」の設置に対して、相模原市みどりの協会では、都市緑化の推進を図る目的で、平成8年度から相模原市の助成を受けて、設置者に対して奨励金を交付します。この機会にあなたのまわりにも身近なみどりを増やしてみませんか。



緑化センター内「生垣見本園」

奨励金交付の対象
新規に生垣を設置する場合で、次の条件に該当する場合に奨励金を交付します。
1. 市内の戸建住宅（店舗併用住宅を含む）用地内に生垣を設置する場合。
2. 1の生垣を設置する住宅用地が、国、県または市の道路（幅員が4メートル以上であること）に接しかつ生垣の長さが3メートル以上であること。
植栽の基準
1. 植栽樹木は、生垣に適した樹種で、原則的に相模原市みどりの協会が推奨するものとします。
2. 植栽時の樹高は90センチメートル以上で、本数は1メートルにつき3本以上を基本とします。
交付の条件
設置した生垣は、良好な管理を行い、設置後5年間はその保存してもらいます。
奨励金の額
予算のゆるす範囲において交付するものとし、生垣1メートル当たり5,000円とし、最高20メートル（100,000円）を限度額とします。
申請の手続
生垣奨励金の交付を受けたい方は、「生垣奨励金交付申請書」に必要事項を記入の上、必要書類を添付して相模原市みどりの協会事務局へ提出してください。
「申請書」は、5月1日よりみどりの協会事務局、市役所みどり対策課、各出張所でお配りします。
適用の除外
一部奨励金の交付ができない場合がありますので、申請書の案内をよくご覧になってください。お問い合わせは、財団法人相模原市みどりの協会事務局へ。TEL0427-77-2860

山野草展
5月3日(水)～6日(土)
野趣あふれる可憐な草花をこ観賞ください。

アジサイフェア
6月8日(土)・9日(日)
アジサイの苗2000株の配布名所ガイドの配布など。

クレマチスの会
会員募集中
クレマチスの好きな方もっと勉強したいという方、歓迎です。
申し込みは相模原市みどりの協会事務局
(TEL0427-772860)。